

米山奨学・学友委員長
常盤卓嗣（平塚 RC）

米山委員会について、今年度の米山奨学、学友会の事業について今年度の事業を振り返りながら概要を説明します。

委員会は月1回、事業については、6月の引き継ぎからほぼ毎月実施しています。米山の委員会は酒が飲めれば誰でも入れるとか、何年も同じ人が委員をしているので変化が難しいと言われていますが、本年はガバナーの命もありメンバーは実直に専念し色々と新しい事にチャレンジしています。私の委員会は22名と地区最多ですが、2名が病欠となり20名で運営、出席率は90%になります。

主な事業を振り返りますと、平塚で七夕まつりが開催されていた最中に、江ノ島海岸でクリーンキャンペーンを学生を交えて実施、交流会も開催しました。この事業も来年は形を変えて行きたいと思います。参加者は約200名、クリーンキャンペーン解散後は、20名ほどで平塚の七夕まつり見学を楽しんでいただきました。

米山の学生にとって、カウンセラーはとても大切です。小沢一彦米山財団名誉理事、そして米山親善大使を講師としてお迎えしカウンセラーの心得を研修もしました。また、米山の学生28名と委員会メンバー45名で日帰り研修を実施しました。米山梅吉記念館そしてお墓まいりをして三嶋大社へ。懇親会には杉岡ガバナーにもご参加いただき足柄のアサヒビール園で懇親を深めました。

相模女子大グリーンホールで行われた地区大会では、米山の学生がそれぞれの出身国のお茶やお菓子を持ちよりロータリアンに提供しました。今年は例年になく盛大に行われ学生も驚いていました。また、10月は米山月間ということで、奨学生と共に委員会メンバーは随行して卓話に各クラブへ訪問しました。私も5箇所共に行って参りました。

11月には国際交流会が開催されました。米山の学生達が母国の料理を手作りしてロータリアンや専任教授と共にその料理を味わい交流を深めました。来年の本事業は米山の久保田ガバナーのもと地区の青年系の委員会との共同事業とし発展した形での交流会となります。

昨年に7月にモンゴルで第2回の学友会の世界大会が開催されました。モンゴルからの米山学友のノミンさん（西ロータリークラブ）達の案内で色々な経験をしてきました。来年は台北の世界大会と同時に開催されます。